

「宝くじ松」配付事業 実施報告（平成30年度）

30年度は5県、7団体が5,170本のマツ苗木を植栽しました

県	団体名	植栽地の名称	本数
福島県	新地町	釣師防災緑地	1,900
新潟県	NPO法人 森の会	海辺の森キャンプ場	400
石川県	根上森林連合会	能美市山口町 松林内	360
福岡県	奈多植林会	奈多松原	1,110
福岡県	芦屋町	白浜保安林	300
福岡県	NPO里浜つなぎ隊	幣（にぎ）の浜（幣ノ松原）	1,000
佐賀県	浦共有財産権利者組合	幸多里の浜	100
		計	5,170

■浦共有財産権利者組合

風光明媚な唐津湾内の日本三大松原のひとつ「虹の松原」を補完する位置にある**幸多里の浜**は、浦地区民が先人から受け継ぎ、大切に守ってきた松原です。

地元はもちろん、県外からも多くの人が釣りや海水浴に訪れる憩いの場所。

潮風から田畑を守り、日陰をつくり、美しい景観をつくりだす松林は、10年程前からマツ材線虫病の被害を受け、大きなマツが次々と枯れていきました。

毎年2回の下草刈り、海岸の清掃等を行い大切に守ってきた松原を、次の世代のために再生し、美しい郷土の宝として残したいという強い思いがあります。

（写真提供：浦共有財産権利者組合）



植栽後の風景



マツ苗植栽の趣旨と、当センターならびに宝くじ協会の助成であることを明記した看板



ラベル

■ NPO里浜つなぎ隊

糸島市のアダプト事業の1登録団体として、松枯れで壊滅的な被害を受けた「幣の浜」の松林の再生・保全に取り組んでいます。

平成28年度から「宝くじ」配布・植栽事業の助成を受け、マツ苗の植栽活動を行っていますが、対象区域が広いので、各年度毎に1,000本の植樹を行っています。



植栽風景

平成 30 年度 「宝くじ松」配布・植栽事業の概要

No.	都道府県	団体名	マツの種類と規格(m)	本数 (本)	(植栽地)植栽趣旨
1	福島県	新地町	抵抗性クロマツ H=0.4	1,900	(釣師防災緑地) 東日本大震災により被災した沿岸部に、津波減災施設として防災緑地(都市公園)の整備を行います。盛土構造と樹林帯の整備による津波減災機能だけでなく、遊具やイベント広場を整備し、失われた海辺の賑わいの創造を図るものです。 このため、耐潮性に優れたクロマツを植栽することにより、津波減災効果を向上させるだけでなく、震災津波により流出した沿岸部の緑の再生を目的とします。
2	新潟県	NPO 法人 森の会	抵抗性クロマツ H=0.3	400	(海辺の森キャンプ場) 海辺の森キャンプ場は、かつて白砂青松の松林でしたが、近年、著しいマツ材線虫病により壊滅的被害を受け、数万本のクロマツが伐倒されました。その後、ニセアカシアが侵入し猛威をふるい、荒廃した林層を呈し、NPO 森の会では海辺の森を第 1 級の観光地として再生すべく、地域住民とともに植樹活動を続けているところです。 本助成により 400 本のマツ苗を植栽し、キャンプ場の松林を再生します。
3	石川県	根上森林連合会	抵抗性クロマツ H=0.2(2 年生)	360	(能美市山口町 松林内) 能美市の松林は、白砂青松の松林として長きにわたり市民に親しまれ、防砂林として地域住民の生活を守ってきましたが、近年、マツ材線虫病の被害により全体の約 7 割近くが枯れました。海岸松林の再生を図るため、根上森林連合会や地域住民が一体となり、行政等と協働して計画的に進めてきました。 今般、当該事業により植栽し、市民・教育機関・企業等が主体となり、保育活動に努めてまいります。
4	福岡県	奈多植林会	抵抗性クロマツ H=0.3	1,110	(奈多松原) 奈多松原は、海からの風、潮、津波や高波、飛砂などから海岸地域の暮らしを守るため、江戸時代から植林された松原で、日本の白砂青松 100 選にも選ばれています。しかし、近年、マツ材線虫病による松枯れ被害が急速に拡大し、一部地域は壊滅的な状態となっています。 地元にとって大切な松林を守るため、抵抗性マツの植栽を実施します。
5	福岡県	芦屋町	抵抗性クロマツ H=0.5	300	(芦屋海浜公園) 本町の森林は、地域住民の生活に密着した里山等の広葉樹と海岸線に臨む松林等の針葉樹で構成されています。これらの森林は自然環境の保全や風害・飛砂・塩害から田畑、住宅、道路等を守る機能を果たしてきましたが、近年のマツ材線虫病被害の拡大によるマツの減少により、その機能が減退しています。 このたびのマツ植栽事業の実施は、地域住民と一体となり前述の森林による環境保全機能の回復を図るとともに、町木ともなっているクロマツを次世代へ受け継いでいくために行うものです。
6	福岡県	NPO 里浜つなぎ隊	抵抗性クロマツ H=0.3	1,000	(幣の浜(幣ノ松原)) 糸島市のアダプト事業の 1 登録団体として、松枯れで壊滅的な被害を受けた「幣の浜」の松林の再生・保全に取り組んでいます。 平成 28 年度から「宝くじ」配布・植栽事業の助成を受け、マツ苗の植栽活動を行っていますが、対象区域が広いとため、各年度毎に 1,000 本の植樹を計画しています。
7	佐賀県	浦共有財産 権利者組合	抵抗性クロマツ H=2.0	100	(幸多里の浜) 風光明媚な唐津湾内の日本三大松原のひとつ「虹の松原」を補完する位置にある幸多里の浜は、浦地区民が先人から受け継ぎ、大切に守ってきた松原です。地元はもちろん、県外からも多くの方が釣りや海水浴に訪れる憩いの場所。潮風から田畑を守り、日陰をつくり、美しい景観をつくりだす松林は、10 年程前からマツ材線虫病の被害を受け、大きなマツが次々と枯れていきました。 毎年 2 回の下草刈り、海岸の清掃等を行い大切に守ってきた松原を、次の世代のために再生し、美しい郷土の宝として残したいという強い思いがあります。
計				5,170	